日本伝熱学会関西支部　伝熱フォーラム委員会

委員長：林　潤（京都大学）
委員：岸本将史（京都大学），堀　司（同志社大学）

■2026 年度　第 1 回　例会

10 月 17 日（土）機械学会関西支部　秋季技術フォーラム
気液二相流技術懇話会，エネルギー技術懇話会
（日本伝熱学会次世代研究者による伝熱技術研究会・日本伝熱学会関西支部伝熱技術フォーラムとの共同企画）
「エネルギー・混相流分野における計測技術・評価技術の最前線」

□参加者：20 人程度

□内　容：本懇話会は，気液二相流技術懇話会およびエネルギー技術懇話会の共催により，日本伝熱学会次世代研究者による伝熱技術研究会および日本伝熱学会関西支部伝熱技術フォーラムとの共同企画として開催された．本企画では，「エネルギー・混相流分野における計測技術・評価技術の最前線」をテーマとして，2 件の基調講演が行われた．第 1 講演では，京都工芸繊維大学の田中洋介氏より，「位相回復ホログラフィによる混相流中微粒子の三次元位置・形状計測」と題した講演が行われた．位相回復ホログラフィを用いた微粒子の三次元計測技術について紹介され，混相流中の粒子挙動や形状を把握するための計測手法とその応用可能性について理解を深める機会となった．第 2 講演では，大阪大学の泰中一樹氏より，「2030 年を想定した火力発電の脱炭素化技術に対する経済性および環境性の評価」と題した講演が行われた．二酸化炭素回収･貯留（CCS）や化石燃料由来の水素・アンモニアの利用を対象として，火力発電の脱炭素化に向けた経済性および環境性の評価について報告された．質疑応答では，提示された評価結果が今後の火力発電所の設備計画や脱炭素化技術の選定において重要な判断材料となることが指摘されたほか，将来的な水素・アンモニアの導入見通しについて活発な議論が交わされた．

